

「ご入学おめでとうございます」

41期生の皆さん、ご入学おめでとうございます。
これから2年間、勉強に、運動に、仲間とのふれあいに、
充実した学園生活をお過ごしください。

さて、当学園には図書室があります。およそ5,000
冊の本を所有しており、街の図書館では中々借りられない
小説なども随時購入しております。

ただし、ここのところ利用者が減少傾向です。

図書室の利用者は、鯉城学園の在學生及び卒業生に限られますので、皆さん、
学生時代に戻った気分一度図書室を覗いていただき、ゆっくりと読書に浸る
時間を体感してください。素晴らしい発見ができるかも知れませんよ。

また、図書室では、皆さんの本や読書にまつわる投稿を700字程度で募集
しておりますのでお寄せください。年4回発行の『こじょうライブラリー』の
中でご紹介してまいります。

詳しくは事務室までお問い合わせください。

なお、本の寄贈については現在受け付けておりませんので、ご了承ください。

※ 裏面では、寄稿文と新刊図書を掲載しておりますので、ご覧ください。



「国宝」 (作 吉田修一)

39期音楽A 鈴木 幾子

2025年夏、巷で話題沸騰の「国宝」。読んだのは二年近く前になるだろうか。もともと「吉田修一」作品は好きで、何作か読んでいた。ある時、図書館で分厚い上・下のクラシックなデザインの本を見つけた。読み始めたらおもしろさにぐんぐんひきつけられていき、短い時間で読み終えた。読後感は爽快だった。でも、まさかあれが映画になるなんて!!

そしてちょうど私が読んでいた頃に、主演のお二人はひたすら歌舞伎修行に励み、もう撮影が始まっていたのだろうか。あの役を演じるためにどれほどの葛藤、苦悩があったのか。想像すると恐怖すら感じる。

私は、好きな作品が映画化されるとがっかりすることが多い。自分の思い描いていたイメージとかけ離れた映像が多いからである。しかし「国宝」は、小説は小説、映画は映画、別物として楽しむことが出来た。700頁の小説を映画にする一たとえ3時間の映画であっても描き切れるものではない。重要な登場人物、エピソードなどばっさばっさとカットされていた。その勇氣はさすがにすごいほどであった。でも、きちんと成立していた。

小説「国宝」を読み終えたとき、私の頭の中は豊かなモノクロだった。映画「国宝」を観終わったときは私の頭の中は、鮮やかな色、色、色で埋め尽くされた。どちらも同じ、まさしく「国宝」の世界だった。二つの「国宝」に出会えたことは、私にとっての大きな宝物になった。

新刊図書 (令和8年3月購入)

作 者	著 書	出 版 社
諸田玲子	おまあ推理帖	文藝春秋
伊坂幸太郎	さよならジャバウォック	双葉社
村上由佳	PRIZE	文藝春秋
月村了衛	対決	光文社文庫
柊サナカ	天国からの宅配便 時を越える約束	双葉社
櫻田智也	失われた貌	新潮社
直島 翔	テミスの不確かな法廷	KADOKAWA
直島 翔	テミスの不確かな法廷 再審の証人	KADOKAWA
丸谷才一	今は何時ですか?	新潮社
彬子女王	飼い犬に腹を噛まれる	PHP
藤井康生	北の富士勝昭が残した言葉と時代	集英社